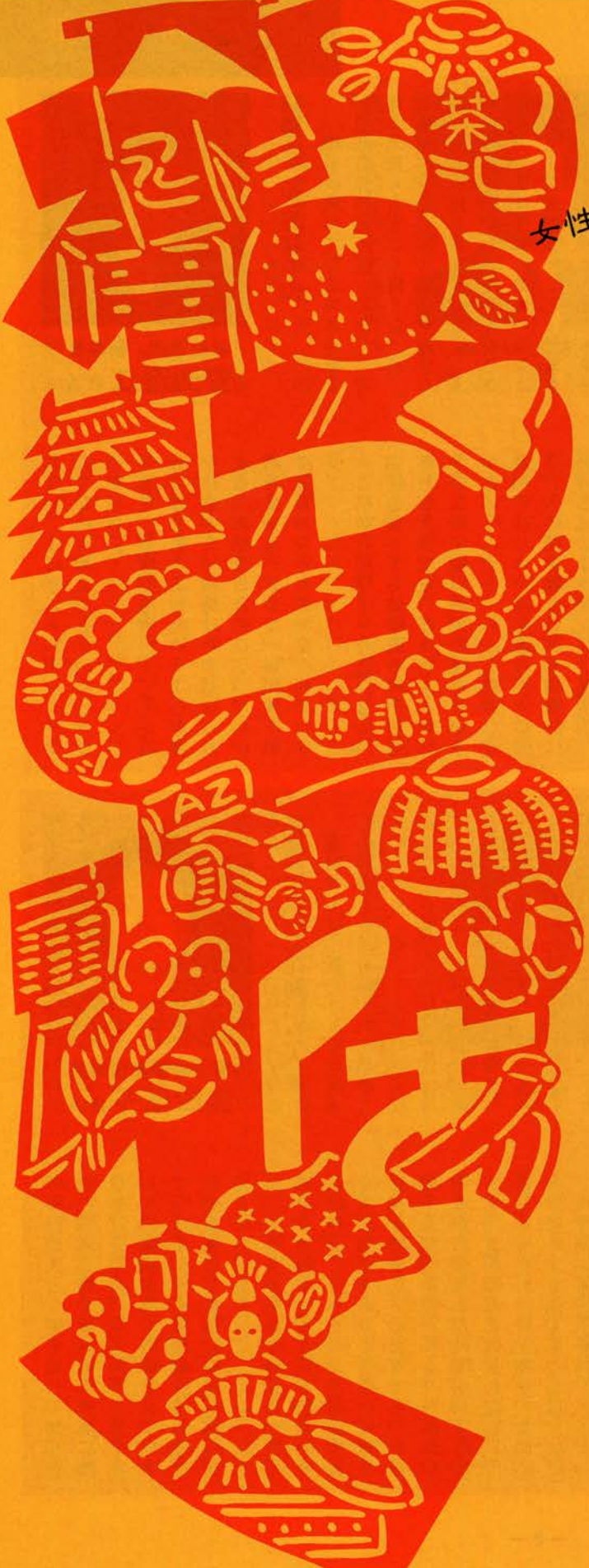


女性のための情報誌

# NETWORK

NO. 19



## 目次

特集 結婚って何? .....	2
◇What's marriage? .....	4
◇人間関係としての結婚 .....	8
ウーマンスクランブル .....	10
グループ紹介 .....	12
国際交流のひろば .....	13
ねっとわあく らいぶらりい .....	14
ポプリ .....	15
編集員紹介 .....	16



静岡県





「浜松百撰」編集長  
安池澄江さん

結婚は二次的なもの

「相手に向いていたエネルギーが全部自分の元に戻ってきて、身体も気持ちもすこく軽くなった。」と離婚の当時は振り返る安池さんは、強い意思と責任感の裏に、人へのやさしいおもいやりを感じさせる方です。仕事と結婚の両立について「大変難しいこと。仕事も結婚生活もそれぞれに責任があることですから中途半端では済まされ

れない。よほどエネルギーが豊富な人でないと両立できないんじゃないかしら。」  
また、結婚の意義について、「自分はどう生きるかということが第一にあって、結婚はその過程における二次的なことのひとつでしかありません。まして、世間体や形にとらわれるものではないでしょう。」

これから結婚する人に対しては、「何と言っても結婚前の相手の選び方が大切です。どういう人が自分にとって魅力的ですばらしい人かということをもっと勉強しなきゃいけない。本を読む、人に会う、人の話を聞くなどを積極的に行うことによって、自分も磨かれ、高められていくのですから。」

# 何 って何

## 結婚 って何

### — 今、結婚について考える —

- 女性の高学歴化や社会進出など、社会情勢の急激な変化を背景に、今、結婚の概念が変わろうとしています。  
「結婚しないかもしれない…」「したいけれどできない…」  
結婚する、しない、したい、したくないにかかわらず、「結婚」は、どんな生き方、どんな考え方の心にも無関心ではいられません。
- 「結婚って何？」「女性にとって結婚とは？」こんな素朴な疑問を持ったことから、今回の特集はスタートしました。



第一建設株式会社代表取締役  
市川 照さん

真の大人社会への参加

「独身時代は、自分のことだけを考えて生きてきましたが、結婚によって、家庭、会社、地域と、本来の意味で、大人社会へ参加できたと思います。」ひとから、「人間」になった—そんな気がしますね。」と語る市川さんは、今年ちょうど四十歳です。  
御両親の強い希望で、東京での就職を断念、地元静岡の第一建設株

に就職。三年後、独立して設計事務所を開こうと思っていた矢先、先代の社長の娘さんとお見合い、結婚されたのが、二十六歳のときのことでした。  
御自身の十四年間の結婚生活を振り返り、「家事、育児は、すべて妻まかせです。」と前置きされながら、結婚によって、女性の負担が多くなる現実に対しては、「すべてを完璧にやろうとせず、お互いの理想とする家庭から一歩下がり、妥協したところでやっていけば、心のゆとりができるのでは。」  
「日本でも、欧米なみに、夫妻単位での社会参加の場を、多くして欲しいですね。」と結ばれました。



南富士病院事務局長  
窪田信子さん

結婚によって花開いた人生

窪田さんは、数えきれない程多くの肩書きを持ち積極的に活動しているが、何よりも家庭を大切にしている魅力あふれる女性です。「結婚によって現在の自分があるのです。五人の子を生み育て、夫と共に医療に従事し、三十年を生きてきました。孫が生まれた今、絆の深さに感激しています。」  
「高校教師をしていたとき、精

神科医の夫と音楽を通じて知り合い、二人三脚で現在の大病院に築きあげました。ケースワーカーとしての実績も高く評価されています。また、十六年間続いている女性史講座は、女性たちから熱い支持を得ています。  
「仕事も家庭も理解し合って、家事を分担する。女性も能力があれば伸ばしていくことを是認するような男性であってほしい。好きな人と結婚して子を育てるのが自然で人間的に豊かになり、制約があるから凝集した時間が持てるのです。女が損だとは思わない。やさしくてかわいい、相手のために身をつくす女性であってほしい。」  
「純粹でしなやかな心が伝わって、さわやかな印象を受けました。」



音楽家  
美尾洋乃さん

自分で選べる人生のいい形

「この人となら、一生ずっと、一緒にいられる—と確信できたから結婚します。結婚したいです。」

私の「結婚」には、子どもを生育することも、当然入っています。」と語る美尾さんには、独身女性の代表として、登場願いました。  
「いわゆる適齢期の二十五歳では、早すぎますよ。実社会で勉強し、経験を積んで分別ができてから、結婚すべき。」と世の風潮を、刺します。  
結婚後も、音楽活動を続けていくことに関しては、意外にも、こだわっていない様子です。



ライター  
山田久美子さん

素敵な関係—別居結婚—

「結婚はわき道。ちよっとおもしろいことをしている感じ。」と話される山田さんの結婚は五年前です。十二歳年下の彼が大学院を卒業し就職したときに、彼の方から結婚の話が出たそうです。ところが、山田さんには、母の看病という大役があったこと、お互いに仕事を中心に考えたことから、岡山の大学に勤務する夫とは別居結婚

「結婚って、自分で選べる残りの人生のいい形」でしょう。知らない者同志が、一緒に、いい形で生活をしていくことを、一番大切にしていきたいです。…悪いことが出てきても、一つの問題として解決できるはずなんです。だから私にとって結婚は、すべてメリットで、デメリットなんて考えられません。」  
その堅実な意見に、既婚女性が忘れてかかっている「結婚の本来あるべき姿」を、見た思いがします。  
でした。そして、結婚後も山田という旧姓で仕事を続けています。  
結婚のとき、山田さんは四十歳。周りの人から「なぜ結婚しないの？」と何度も聞かれました。「結婚は、個人の自由。するしないは、価値観の違いなので、聞くべきことではない。」ときっぱり。  
「結婚するならば、本当に好きな人と、したいときにしてほしい。」  
「今、夫は転勤して、清水で一人の生活をしており、また、母を亡くし、同居も可能となりました。しかし、お互いの仕事のためには、今の形がベスト。」会えるときには、二人の時間を大切にしているそうです。これこそ素敵な関係を保つ秘訣なのかもしれません。





県内の各年代の人たちにアンケートをしてみました。

●女性 ●男性

なぜ、結婚したのですか？

●友達としてつき合っていたのに、周囲からおだてられてその気になった。タイミング。

(会社員 29歳)

●女性は結婚して家庭をもち、子どもを生み育てるものという概念がいつの頃からかあり、また、特に迷う気持ちもなかった。

(主婦 36歳)

●学生時代よりグループ交際してきた仲間で、自分の人生観と通じたのが結婚したきっかけです。

(会社員 43歳)

●この人とならいいかな、ということと結婚。当時は、適齢期！なんて言葉が盛んに使われ、周囲に世話好きの人、結婚させたがりやの人が多かった。

(主婦 55歳)

●親からの独立と家庭を持つことで、自分自身の人生を作りたいと思ったから。きっかけは、見合い結婚です。

(主婦 41歳)

●収入が良くなり、二人で何とか生活できると思い、子供が欲しかった。落ち着きなくなった。

(ドライバー 26歳)

●今の奥さんが好きでした。

(会社員 44歳)

●私たちの時代は、ごく自然の姿でしたから。

(ピアノ教師 74歳)



なぜ、結婚しないのですか？

●結婚したいと思う男性がいない。

(研究員 25歳)

●金なし。相手なし。

(研究員 27歳)

●この人となら一生一緒に生きていける、という人にめぐり会わなかった。やりたいことが多くて、自由気ままな生活を捨ててまで結婚生活をしたとは思わなかった。

(現在は、私をありのまま受け入れてくれ、安心感のある人とめぐり会えた。―近日結婚予定―)

(幼稚園教諭 28歳)

●自分とピッタリと合う相手とめぐり会わないため。

(塾教師 32歳)

●願望がない。(結婚に向かないと思う。) なぜなら、男性に対して対抗意識がある。男性をたてることができない。(会社員 36歳)

結婚はしなくてはならないものと思えますか？ また、人生の中でどの位置づけは？

●個人の自由である。しかし、まだまだ世間では結婚しないと何歳になっても一人前でないかのようにならざるを得ないので、その偏見に耐えるは大変だと思う。

(会社員 25歳 未婚)

●やっぱり、しなくてはならないものと考えております。私は、人生の流れの中の一つの行事というか節目にしようかと思っています。結婚したからといって、その日から変わるはずはありません。

(技術者 26歳 未婚)

●本人の自由にすればよいので、どちらとも言えないですね。私は、結婚したいときに年齢に関係なくすればよいと思う。血のつながりのない人と一緒に暮らす。初めてのことですよね。独身でいたときよりも、自分を知ることのできる状態のスタートだと思っています。

(会社員 29歳 未婚)



# 結婚って何？

● “人”という字のように、助け合いを一番うまく表現したのが結婚であり、長い人生の中で最も大切なものであると思う。

(会社員 32歳 未婚)

● その人の価値観の違いなので、絶対にしなくてはならないとはい切れないと思う。どんな結婚をしたかによって、その人のその後の生き方の方向も変わってくるのではないかと思う。

(主婦 33歳)

● 独身時代、親の保護下にいた者が、結婚して家庭を持つことにより、束縛もされ不自由さはあっても、それもまた幸せであろうと思う。自分以外の者を愛し、尽くす人生の中においても大切だと思います。

(主婦 36歳)

● 男女雇用機会均等法が施行されてから、女性が仕事を続けることが数十年前よりはずっと可能になりました。女性にとって今後は結婚が、重要なことの一つではなくなると思います。

(会社員 43歳 既婚)

● してみるべきだと思います。原初の頃より、男女が子孫を生み出す基本生活を忘れてはいけないうると思う。

(主婦 44歳)

## 結婚のメリット・デメリット

<ul style="list-style-type: none"> <li>・他人を養うという自覚がつく</li> <li>・好きな相手と一緒にいられる</li> <li>・子供を生むことにより近所や社会とのつながりがそれまでにない経験となる</li> <li>・精神的安定を得られる</li> </ul>	<p>ここがいい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生き方を考える上で重要</li> <li>・お金も時間も全部自分のものにできる</li> <li>・自分の意志通りの人生が過ごせる</li> <li>・自分のペースでのんびり生活できる</li> </ul>	<p>未 婚</p>
<p>結 婚</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心配ごとが増える</li> <li>・忍耐が必要</li> <li>・なにかと規制がある</li> <li>・自分の時間が減る</li> </ul>	<p>ここが困る</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来どうなるのだろうかという不安がややある</li> <li>・性格異常者に見られる</li> <li>・寂しい</li> </ul>	<p>未 婚</p>

— アンケートから —

無理に結婚しなくてもよいという女性が増えているという風潮について、どう思いますか？

● まわりに惑わされることなく自由な生き方だから、それはそれでよいと思う。

(会社員 28歳 未婚)

● いいと思う。結婚がすべてではない。(会社員 24歳 未婚)

(会社員 24歳 未婚)

● 自立できる女性が増えてきたため男性に昔のように期待しなくなってきた。仕事がおもしろいのに、結婚のために辞めることがバカらしく思う女性が多いのでは。逆に、男性がだらしなくなってきた。

(会社員 26歳 未婚)

● 女性は仕事も趣味もますます頑張る。自己主張できる人が増えてくるのに対し、男性は相変わらず自分に従ってくれるような女性を結婚相手として求めている現状なので、無理に結婚しなくてもよいという女性が増えてくるのは当然であると思う。しかし、そういう女性たちも本当は結婚したいのだと思う。(研究員 25歳 未婚)

● 周囲に振り回されて自分の考えで行動しにくかった結婚前に比べ、今の方が自分に余裕が持てると思う。

(主婦 37歳)

